

# 地域のもりから学ぶ森林づくり2012

## 「森林の生物多様性を学ぶ」 第四回森林教室

### もりを育てよう

第4回森林教室は9月21日（金）に定山溪中学校と奥定山溪国有林にて実施しました。

3年前の秋に定山溪中学校の生徒さんが奥定山溪で取ってきたミズナラやイタヤなどの種を学校で育てていました。そして生長した苗木たちを山に帰そうと言う事を取り組んできました。

果たして種から立派な苗木ができたでしょうか。

2年間大事に育てたかいがありミズナラやイタヤが山に帰していくのに大丈夫なほど生長しました。これを今回は「カミネッコ」を使い山に帰していくこととしました。

まずは「カミネッコ」づくりからです。「カミネッコ」は北大名誉教授の東三郎先生が考案された方



法で誰でも山づくりができるよう考案されています。作成の指導はふれあいセンター職員で行い、出来上がったものを奥定山溪に帰して行きました。これから自然の中でどう育っていくのでしょうか。愛情を込めて見守っていきたいと感じる一日となりました。



### カミネッコーロタモ

「カミネッコ」という名前の不思議な紙のポットがある。再生ダンボールを使った組み立て式で、壁部に水でぬらした古新聞をつめて作る。子どもでも簡単に作ることができる。これに培養土と苗木を入れて少し育て、森をつくりたい場所にポンと置くだけ。地面を掘ったり、面倒な世話などはなくてよい。

ポットはやがて風化してなくなり、数年後には小さな森ができる。まるで倒木更新の古い大木のように、カミネッコは小さな苗木を守ってくれるのだ。

ただし大事なことが一つある。それは『愛情』を持つこと。わたしたちが20世紀の間中ダメージを与え続けてきた森に、愛情をもって恩返しする気持ちがなければ木は育たない。